

やさかだよい3No77

八坂地域づくり協議会 <http://www.shinshu-yasaka.com> 2020年(令和2年)3月1日



2月3日 たけのこ保育園で、節分の豆まきを行いました

3月号の記事

地域づくり協議会の活動	2
地区活動	3
地区活動	4
八坂小・中学校	5
保育園・山留の風	6
コミュニティ・スクール	7
公民館	7
編集委員任期を終えて	8
編集後記	8



八坂地区の人口：807人
(男 398人・女409人 高齢化率 36.7%)
八坂地区の世帯：352 世帯
(令和2年2月1日現在)



地域づくり協議会の活動から

期 日	区 分	内 容 等
12月13日	第5回八坂地域づくり協議会	・明野太陽光事業について ・指定管理施設について ・市長との地域懇談会について
1月12日	大町市消防出初式	・自主防災会、日赤奉仕団参加
1月15日	やさかだより編集会議	・やさかだよりNo.77号の編集について
1月16日	市長との地域懇談会	22名参加
1月18日	地域振興部、地域振興検討会議合同反省会	・やさかボランティア隊について
2月5日	大町市おでかけ議会 市民と議員の意見交換会	・野平生活改善センターにて開催 17名参加
2月7日	第4回 自治振興会長会議	・自治組織の在り方について
2月13日	地域振興検討会議	・やさかボランティア隊組織について
2月19日	第6回八坂地域づくり協議会	・H31年度事業報告(案)と決算見込みについて 他

市長との地域懇談会 (1月16日)

1月16日に地域懇談会が支所集会室において開催されました。牛越市長を迎え、22名の参加がありました。

当日は、市長の他、まちづくり交流課、建設課の職員も出席され、国際芸術祭、地域高規格道路、明野太陽光発電事業、簡易水道事業や、市民バス、明野市営住宅についての質問が出されました。



大町市おでかけ議会～市民と議員の意見交換会～2月5日 野平生活改善センターにて開催



市民と議員の意見交換会は、17名の方に参加していただき、9名の議員の皆さんと意見交換を行いました。

当日は、今年4月から運行変更となる市民バス、デマンド交通についての質問や、定住促進住宅建設、鳥獣害被害対策に関わる猟友会への補助金増額などの意見が出されました。

今後、確認、調査をして、地域づくり協議会の方へ回答をいただけるという内容でした。



各地区活動報告

～どんど焼き等伝統行事が行われる～

舟場集落と上簗集落のどんど焼き

舟場集落は1月7日(火)に、上簗集落では1月12日(日)に、それぞれ、どんど焼きが行われました。

舟場集落のどんど焼きは、朝より松飾りを河原道祖神前に持ち寄り、3時から竹組の上に達磨を乗せ、中心に薪を積み上げ、お札、松飾りを乗せてしめ縄で縛り準備しました。温暖化のせいか雪から雨に。夕方6時より家内安全、無病息災を願いながら点火。大きな火が燃え上がり竹の爆音が響き、たまらずそばにいられず、対岸大岡集落のどんど焼きも対抗するように炎と爆音が響いていました。昔は子どもたちの年三・大行事として、どんど焼き、七夕、天神様祭がありました。今は大人のどんど焼きのみとなっていました。残り火でお餅を焼き、風邪を引かないように願いながらお餅を食べました。



舟場集落



上簗集落

また、上簗集落では、どんど焼きと一緒に、赤土ポケットパークのクリスマスイルミネーションの取り外しも行いました。

どんど焼きのやぐらは10人が手をつないでも届かないくらい大きさになり、年男、年女が点火しました。

このイルミネーションは、上簗郷土文化を発展させる会が毎年飾りつけを行い、地域をはじめ、国道を通る人たちの目を楽しませ、冬の風物詩となっています。寂しくなりますが、次の冬を楽しみにして下さい。

今年はオリンピックもあり、旧年のような災害がありませんように、また、良い年になりますようにと祈るばかりです。

舟場地区編集委員 山崎 重幸



赤土ポケットパークのイルミネーション



鳥追い 早朝に各戸をまわる子どもたち



切久保地区



中央地区



野平地区



大平地区



小 学 校

雪不足だけど元気に 1 月 31 日スキー講習

今年の雪不足は昨年よりも深刻で、リフトが動かなければ、雪遊びで昼食を食べて帰ってくるしかないと考えていました。昨年は、前日までに「恵みの雪」が降ったのですが、柳の下に泥鰌は2匹いませんでした。少ない雪でしたが、スキー場の皆さんの整備のおかげで、スキー講習が実施できました。子どもたちはレベルごとに6つの班に分かれ、講師はインストラクターさん、学校支援ボランティアの皆さんなど手厚い中での練習です。その上、他小学校2校のキャンセルで、スキー場は貸し切り状態。講習の初めと終わりでは、どの子も見違える程の上達した姿を見せてくれたのは言うまでもありません。

今年の花作りは「ちょっと違う」

右の写真を見てください。教職員が一步離れて立っています。教職員は基本手を出さず、各班のリーダーたちが低学年に説明して、指示を出し動きます。実は昨年、作業中に教職員の指示を出す声が多いことに違和感があり、その点を変えました。そうすると、子どもたちが自主的な動きを見せはじめました。それが本年度につながっています。児童集会でフラワー・ブラボー・コンクール（FBC）への参加を決め、全児童がゴールデンウィークに家で発芽させ、全校体勢で関わってきました。コンクールでは花壇の出来栄えとともに、子どもたちの主体的なかわりも評価され、今年度は優秀賞（長野信用金庫協会賞）をいただきました。



そんなわけで、「先生が指示を出す」から「児童自らが行う」活動になってきたのが「ちょっと違う」のです。

中 学 校

SDGsとは2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標で「気候変動に具体的な対策を」等、17の目標が掲げられています。中学校の生徒会でもこの活動に協力しようとインクカートリッジやペットボトルキャップの回収を開始しました。この回収を通して温暖化やプラごみの海洋汚染を考えていきたいと思います。2050年には世界人口が100億人に達すると言われています。食料や資源の争奪にならぬようESD（持続可能な開発のための教育）が求められています。また、長野県視覚障がい者福祉協会から依頼のありました、書き損じはがきの回収にも取り組んでいます。もしご家庭に年賀状等の書き損じ葉書がありましたら、ご協力いただけたら幸いです。

たけのこ保育園

1月10日に祖父母参観で、「まゆ玉づくり」を行いました。
みず木（あかぼの木）に、赤・緑・黄色の鮮やかな米粉で作った飾りをつけました。

今年が、豊作になるように願いを込めて作るのですが、子どもたちはお花や蛇やアイスクリームなど欲しいものや好きな物を考えて、おじいちゃん、おばあちゃんと楽しくお話ししながら作っていました。

鮮やかで、みごとな「みず木」ができ上がりました。子どもたちはそれぞれの枝を切って持ち帰り、地区のどんど焼きで食べた子もいたようです。正月の伝統行事に触れる良い機会になりました。



山留の風

育てる会 Tel:26-2306 HP:www.sodateru.or.jp

冬の山村文化体験として、炭焼き体験をしました。

12月中旬、山仕事創造舎の方を講師に招き、人と木の関わりの話や、林業で使われる道具の紹介をしてもらい、原木の切り出し活動に入りました。

班ごとに1本の木を切り、運び出すまでの一連の作業は「代わろうか？」

「がんばれー！」と、声を掛けあいながら、交代でノコギリを使いました。

10メートル以上もある木が倒れる光景はなかなかの迫力で「おお～！」

と、歓声がおこっていました。その後は、枝打ちと玉切りを大人が行い、みんなで原木を車に積んで帰りました。

1月中旬に炭焼きをしました。原木を斧で割り、炭焼き窯の中へ隙間無く並べていきます。割った原木は一本一本形が違いますが、子どもたちは「パズルみたいで楽しい！」と作業をしていました。そして、窯の入り口で火を焚いて、入り口を閉めていきます。窯の中の様子は煙の色や臭い、手に感じる煙の熱さで判断します。



翌日、釜の入り口を開けると、奥の方で深紅に燃える炭が姿を見せ、子どもたちは「熱い」「きれい」「顔が焼ける！」と言っていました。この炭を長い鉄製の道具で掻き出し、湿らせた灰をかけて冷まし、白炭の出来上がりです。



来る3月19日、八坂44期・美麻28期の28名の学園生が修園を迎えます。この3月まで学園生たちが歩いてこられたのは、地域の皆様の暖かいご協力のお陰です。本当にありがとうございました。

次年度も、どうぞよろしくお願い致します。



～卒業制作（6年生）～

6年生は家庭科の取り組みで、卒業制作を進めています。今年からパソコンが入れ替わり、これまで使っていたディスプレイのカバーが使用できなくなったため、子どもたちの強い希望から『パソコンカバー』を作り直すことにしました。材料は以前、草木染め用に地域の方々から集めた布を活用し、染める予定です。

まず、パソコンの大きさを採寸して、布の大きさを決めて布を裁断しました。次に布へ縫い代を書き込み、ミシンを使って縫おうとすると・・・約1年ぶりのミシン操作に子どもたちは大苦戦・・・「先生、糸が・・・上手く縫えませ～ん。」と救いを求める声がチラホラと。ここで、学校支援ボランティアの渡辺恵子さん、弓削宏代さん、真鍋和子さん、3名の救世主登場！助けを求める子どもたちに素早く対応していただき、作業は順調に進みました。仕上げの草木染めは4回目ということもあり、かなり自信を持っている子どもたち、どんな卒業制作（パソコンカバー）に仕上がるか楽しみですね！



公民館の活動

第40回 郷土かるた・もちつき大会

1月11日(土)

～公民館・子ども会育成協議会主催～

子ども約40名の参加のもと、郷土かるた・餅つき大会が行われました。もちつきは、12kgのもち米を4回に分けてつきました。重たい杵にフラフラしながらも「よいしょ！」と大きな声が校舎に響きました。つき上がったもち食生活改善推進協議会のみなさんに教わりながら、きな粉や擦りゴマ、砂糖醤油を付けたり雑煮にして全員で食べました。「つきたてのおもちは柔らかくてとてもおいしい」と言って、おかわりをしていました。



午後のかるた大会は各部に分かれて、八坂郷土かるたと大町民話かるたを交互に計4回行い、合計枚数を競いました。真剣な眼差しでかるたを囲み「ハイ！」と大きな声でかるたを取る姿が印象的でした。40年前に始まった伝統あるかるた・もちつき大会を、今後も地域や学校と協力しながら続け、子どもたちにふるさとの良さを伝えていきたいと思います。



【5～6年生の部】			【3～4年生の部】			【1～2年生の部】		
3位	北澤虹心		3位	金子璃音		1位	谷林花梨	
2位	稲垣有希		2位	山口みろく		2位	仁科あいる	
1位	仁科日花		1位	岡野亜美		3位	新山おと春	
【保育園の部】			【3～4年生の部】			【1～2年生の部】		
がんばったで賞								
伊東いずる、真鍋土								
丸、谷林一花、北澤								
周、新山さと、仁								
科輝也、江藤礼莞								
北村麻央、新沢隼世								

かるた大会結果

この大会は前日準備から当日の進行等を小学6年生が主体となり実施しています。

編集委員の任期を終えて



編集委員になり任期の2年が終わろうとしています。当初、どのような活動をするのか、記事をごどのように書くのか頭を悩ませました。でも、2か月に1度の編集委員会の席で地区の行事、イベントの今昔を聞いたり、今迄知らない人との会話もあり、顔をつなぐこともでき、大変有意義でした。これからも地区行事がずっと長く続くことを願うものです。

たくさんの方のご協力をいただき、おかげさまで任期を終えることができました。どうもありがとうございました。

山崎 重幸（舟場）

編集委員としての2年は、長いようで短く感じています。様々な地区活動を知り、私自身とても面白く became なりました。八坂は地域の団結があり、皆で力を合わせる

大切さを知りました。

地区のどんと焼きと新年会に参加したので、大人が飲んでいる横で子どもたちの楽しそうな姿を見ていると、世代の幅広さはとても場を和やかにしてくれ、地域の方々が私たちと同じように子どもたちを気にかけてくださることに感謝しています。

記事を書くにあたり協力していただいた方々にこの場をおかりし感謝申し上げます。

平林 宏一（大平）

移住して2年目の一昨年春から何も分からなまま編集委員として活動を始め、記事はなんでも良いとのこと、自然環境の素晴らしさを発信したいと、蝶の記事を書いたのですが、賛否両論有り、記者活動は思っている程簡単ではないと実感しました。

その後、地域活動に参加し自分の目線で感じたことを書くように努めたのですが、いかがだったでしょうか。大勢の方に協力いただき、なんとか2年間勤める事が出来たことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

谷林 圭介（切久保）

3月は卒業シーズン、「卒業と脱退はどう違うの」と、話題になっていました。編集委員になる前「八坂だより」は面白くないと、あまり読んでいなかったし、読んでも斜め読み？地区の所だけ読むみたいな。自分ならもっと面白く書けると思っていましたが、実際書いた原稿を600字に絞ると、面白さも減っていく。（と思う。）結果、面白さ微妙。意味不明にもなる。人に読んでも貰える文章にする事

は難しいです。文才が無いので。残念ながら3月で編集委員を卒業します。

佐藤 眞一（野平）

編集委員としての任期を終えようとしています。4期目となっても苦手なものはやはり苦手で、パソコンに向き合うも打つ手は進まず、いつも四苦八苦していました。でも、編集委員会では、八坂に住んでいるのに、知らなかったことを知ったり、いろいろな話題を聞いたりと、貴重な場に参加させていただいていると思いました。反省することも多々ありましたが、ご協力いただいた皆様のおかげで、任期を終えることができました。どうもありがとうございました。

松下 憲夫（石原）

編集後記

暖冬とされていた長期予報が当たり穏やかな冬ですが、その冬も終えそうです。雪かきが少なく生活するには楽でしたが、雪不足が深刻でもありました。

各自治振興会の総会では、役員改選や新年度の行事等議題に上がることでしよう。編集委員も任期が終わる時期となり、あらたな編集委員が選出される地区もあると思います。地味ではありますが、なくてはならない役です。地域の話題や情報を分かり易く掲載し、読んでいただく必要性を感じています。すべて掲載できるわけではありませんが、できるだけ取り上げようと話してきましたので、これからもそうあってほしいと願っています。

新年度より、問題となっている有害鳥獣を取り上げる予定です。有効な対策手段等ありましたらお知らせください。

編集委員長 丸山 茂（中央）